

令和5年度 自己評価計画

							石川県立明和特別支援学校	
重点目標		具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1	ICT機器を活用した集団学習の充実	GIGAスクール構想の理解をさらに深め、ICT機器を日々の学習活動の中で効果的に活用し、集団での学習を充実させる。	全学部 GIGAスクール構想研修推進委員会	一人一人の学習を支えるツールとしてICT機器の活用が図られてきている。今年度は、集団での学習に焦点を当て、ICT機器をツールとして活用しながら目標達成につながる実践を積み重ねていく必要がある。	【成果指標】 ICT機器を活用し、集団での学習の充実に向けて自己の実践が整理できる。	ICT機器を活用して集団での学習の充実を図り、自分なりに成果や課題を整理することができた。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者:教員 9月:アンケートで判定 10月:中間評価分析 年度末:9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
			全学部		【満足度指標】 学校は集団での学習をすすめている。			授業参観や日々の児童生徒の様子、通信やHPなどから、学校が集団での学習を進め充実させている様子が表れている。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない
2	教科指導及び実践力の向上	① 県事業と学校研究を一本化し、昨年までの学校研究で構築した皆で授業を作り上げる過程を大切に、授業づくりを行っていく。	研究研修課	教科指導の授業づくりにおいては、「単元構想」「指導案検討」「模擬授業」「授業整理会」「評価」の一連の流れで一人一人の教員が主体的に関わり指導力や実践力を高める必要がある。	【成果指標】 各教科の授業づくりに係る様々なプロセスの中で指導力や実践力を高める。	一人一人の教員が各教科の授業づくりにおける様々なプロセスに関わり、各教科の指導力や実践力を高めることができた。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者:教員 9月:アンケートで判定 10月:中間評価分析 年度末:9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
3	一人一人の障害特性に配慮した安全安心な学校運営	① 昨年度まで制限されていた活動を再開するにあたり、これまでの体制や内容を見直し、一人一人の障害特性等に配慮した安全安心で、より良い学習活動を立案・実施していく。	全学部	ポストコロナ及び生徒増を踏まえ、これまで行ってきた行事等の体制や内容を見直す必要がある。校内外の活動の再開等にあたっては、児童生徒の実態を丁寧に把握し、適切な環境を設定しながら、安全安心な運営を行う必要がある。	【成果指標】 安全安心な学習活動について、日常的に学部学年等で話題として取り上げ適切な環境で取り組むことができる。	安全安心な学習活動について、日常的に学部や学年で話題として取り上げ適切な環境で取り組むことができる。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者:教員 9月:アンケートで判定 10月:中間評価分析 年度末:9月同様のアンケートで判定し、最終評価分析
			全学部		【満足度指標】 教員は障害特性や環境等に配慮した体制整備に努め、児童生徒は安心して学習活動を行っている。			教員は、障害特性や環境等に配慮した環境整備に努め、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう指導・支援している。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない
4	業務改善(業務の効率化)	① 業務改善に向けて、今年度もICT支援員の力を借りながら、分掌業務のデジタル化をさらに推進し、業務の効率化を図る。	全学部・部門 各課 教育相談部 自立活動部 県特研	分掌業務において、デジタル化・共有化できていない業務を洗い出し、チームで業務にあたるようデータのデジタル化・共有化を進め、クラウドやグループウェアを活用して、業務の効率化をさらに進める。	【成果指標】 各部署ごとに業務の効率化を図る具体的な業務を定め、チームとして業務の効率化に取り組む。	各部署ごとに対象として定めた業務について、効率的に業務を行うことができた。 A:あてはまる B:ややあてはまる C:あまりあてはまらない D:あてはまらない	【A+Bが80%以上で達成】	評価者:各部署のまとめ役 9月:各部署で掲げた目標の達成度合いを判定 10月:中間評価分析 年度末:9月同様に各部署で達成度合いを判定し最終評価分析